

三位一体の主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ3：16-18

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、世の人々が救われるためである。しかし、神の独り子の名を信じていない者は既に裁かれている

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#211、232-237、256； YOUCAT #35-36、39、112）

「私はある」または「ある」という神のみ名は、神の忠実さを示します。神は、人々の罪による不忠実に対して、幾世代にも及ぶ慈しみを守られます。さらに、神はご自分の御子をお与えになり、人々を罪から解放するためです。神はその最愛の御子をすべての人のために渡されたのですから、受洗者が主の祈りにおける「私たちの父」ということばを使って祈る時、私たちの心はキリストのうちに現された神の愛の限りない広さに向けて解き放たれます。それに、御父を知らないすべての人に対して、神の偉大な愛をもって、彼らが救われるのに祈りを捧げ、愛の大きな包容力を与えます。実は、受洗者は「父と子と聖霊のみ名によって」洗礼を受ける前に、三位一体への信仰に信じますと答えます。彼らは、三位一体の名（単数）によって、洗礼を受けます。神は唯一で、つまり、全能の父、その独り子、聖霊は至聖なる三位一体だからです。従って、至聖なる三位一体の神秘は、キリスト者の信仰と生活の中心的神秘で、神のご自身のうちなる神秘です。この神秘は、基本的で本質的な教えであり、信仰のすべての諸真理の源と光です。救いの全歴史は真の唯一の神、父と子と聖霊が自らを啓示し、罪から離れる人間と和解し、一致する業です。神の救いの業によって、神ご自身の啓示と命の神秘を啓示されます。事実上、三位一体という信仰は、神から啓示されなければ知ることの出来ない神秘です。神は旧約時代の間になされた業と啓示によって、ご自分が三位一体であることを暗示されましたが、神のご自身の命は神の御子の受肉と聖霊の派遣以前には、イスラエルの民の信仰によっても知りえなかった神秘です。

今日、私たちはキリスト者として三位一体への愛のために戦い、即ち、私たちにあらゆる不幸を耐えさせ、あらゆる快樂を軽んじさせるものです。さらに、三位一体の神に一切のことを委ね、賛美と栄光を帰します。なぜなら、私たちは三位一体への信仰を宣言し、三位一体の名によって、水の中に入れ、引き上げられます。また、三位一体の神は生涯の伴侶、保護者として、私たちに愛を授けるからです。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#44、48 三位一体の神への信仰宣言：

教会は父と子と聖霊の三位のペルソナにおける唯一の神を告白します。三位一体の名によって、洗礼を授けることは、三位一体の神への信仰を表し、また、この信仰をキリスト者の生活の中心となります。三位の神のペルソナは唯一の神です。唯一というのは、三位の神のペルソナはそれぞれが分かつことの出来ない神の本性と充満と同一です。それと同時に、三位のペルソナは互いに区別された存在は、それぞれの間に持つ関係です。これは、御父は御子を生み、御子は御父より生まれ、聖霊は御父と御子から発出することです。

#40 神に関する神秘について：

神は世界と歴史を超越し、天地の創造主と救い主です。

神は聖なる方、憐れみ豊かな方、霊的で、全能で、真理である方、愛である方、完全な存在です。

最後の祈り：感謝の祭儀における「栄光の賛歌」または「栄唱」という祈りを唱えます。